

政策 07 人と人がふれあうまちづくり

施策 02 にぎわいの創出とまちへの愛着意識の向上

あるべき姿

施策がめざす尾張旭市の姿 ・祭りやイベント、市民同士のふれあい、居住するなかで、わがまちに「愛着」を感じる市民が増えています。  
 ・祭りやイベント、まちの魅力を活用してにぎわい（交流人口）が創出されています。

施策の成果状況と評価

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	わがまちに「愛着」を感じる市民の割合（％） 【産業課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		78.3	78.3	81.3	80	☀️ (向上)
評価	前年度に比べ、実績値(R元)が3ポイント増加し、他基準値、目標値を達成している。 市民祭が中止になる等、毎年開催しているイベントの参加者は減少したものの、全国植樹祭が開催されたことが要因の一つであると考えられる。					☀️ (向上)
						☀️ (向上)

指標	観光入込客数（人） 【産業課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		1,142,241	1,142,241	1,196,926	1,250,000	☀️ (向上)
評価	前年度の実績値に比べ、現状値が54,685人増加した。森林公園の利用者が約82,000人増加しており、これは平成30年度に全国植樹祭に伴い施設の一部が利用できなかった期間があったのに対し、令和元年度は利用できたことが要因の一つとして考えられる。その他の大きな要因として、平成30年度に35,000人が参加した市民祭が台風により中止となっている。仮に市民祭が開催でき、平成30年度と同数の来場があった場合は、約123万人の来場が見込めたと考えられる。					☀️ (向上)
						☀️ (向上)

# 基本事業の成果状況と評価

## 基本事業01 イベント等を通じたふれあいの推進

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	市民同士のふれあいの場・機会への参加の割合（％） 【産業課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		43.4	43.4	42.8	55	(横ばい)
評価	前年度に比べ、実績値（R1）はほぼ横ばいである。さくらまつりや市民祭の参加割合が7割近くある一方で、その他のイベントは4～1割程度である。引き続き各種催しの内容や周知方法の見直しを行うことで、向上の余地はあると考えられる。					対前年度
						(横ばい)
						目標達成度
						(高)

## 基本事業01 イベント等を通じたふれあいの推進

指標	観光・交流イベント等の参加者数（人） 【産業課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		120,357		92,780	130,000	(向上)
評価	前年度の実績に比べ、現状値が27,577人減少した。これは、台風により市民祭（前年度33,000人参加）が中止になったことが一番の要因である。ただし、さくらまつりの参加者は前年度よりも8,800人増加している。仮に市民祭が開催され、前年度並みの参加者があった場合は、125,780人の参加者が見込まれ、対前年度・対基準値を上回る。					対前年度
						(向上)
						目標達成度
						(中)

## 基本事業02 交流人口増加へのPRの推進

指標	マスコミへの掲載件数（観光・交流）（件） 【産業課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		38		102	50	(向上)
評価	後期基準値・目標値の2倍以上の掲載があった。これは、令和元年度に全国植樹祭が開催されたことが要因と考えられ、実績値の約半数が全国植樹祭に関する記事であった。					対前年度
						(向上)
						目標達成度
						(達成)

## 基本事業02 交流人口増加へのPRの推進

指標	観光・交流資源数（点） 【産業課】	基準値	実績値	実績値	目標値	対基準値
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	
		10		10	11	(横ばい)
評価	前年度の実績値から変動はなかった。観光・交流資源数を増やすことは容易ではなく、現在は既存の観光・交流資源を充実することに注力していることが要因と考えられる。					対前年度
						(横ばい)
						目標達成度
						(高)

**基本事業03 国際交流・地域間交流の推進**

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	外国人や国内他地域のひと相手の文化を尊重して接することができる市民の割合(%) 【健康都市推進室】	基準値	実績値	実績値	目標値	対
		(H30)	(H30)	(R元)	(R05)	基準値
		65.3	65.3	64.5	75	☂ (低下)
評価	前年度と比較すると、0.8ポイント指標が低下し、平成27年から連続して数値が低下した。アンケートの選択肢は「1理解して接することができる」「2ある程度理解して接することができる」「3あまり理解して接することはできない」「4理解して接することはできない」の4択であり、このうち1の回答者は増加したが、3と4の回答者の増加により指標が減少した。外国人が増加傾向にある一方で、多文化共生に対する理解が広まっていないことが背景にあると考えられる。					対 前年度
						☂ (低下) 目 標 達 成 度 ■ ■ ■ (低)